

科目名	救急救護総論			分野・必選別・単位数	基礎科目	必修	2単位
担当教員	◎教授 窪田和弘						
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義
授業の概要	救急救護は学問領域として未確立で、経験則に基づく業務が行われている状況にあり、現場での多くの貴重な実例が集合知として活かされていない。救急救護領域の学問的発展には、抜いた事例を科学的に分析、理論付けし、実践とを統合した「Theory-based Prehospital Emergency Care」に基づき、新たな学問体系を構築する必要がある。救急救護の諸特性を際立たせ、それに対するアプローチ法、対処法を科学的に解析、体系化しながら「学」の構築を試みる。						
授業の到達目標	①救急救護の担う独自領域を検討する。 ②救急救護の事例を科学的に解析する方策を説明できる。 ③②の成果を整理し、救急救護活動を体系的に説明できる。 ④関連科目を体系的に考察することができる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	窪田 和弘	教 授	救急救護について 救急救護活動の意義、目的及び概要について説明できる。			
	2	窪田 和弘	教 授	科学的分析法(1) 救急救護活動の具体的症例の集積、課題分析の基本的方法を説明できる。			
	3	窪田 和弘	教 授	科学的分析法(2) 課題分析の実際について概略を説明できる。			
	4	窪田 和弘	教 授	救急救護の独自性、機能性(1) 救急救護体制における救急隊の立ち位置、医師・看護師との連携の概念を説明できる。			
	5	窪田 和弘	教 授	救急救護の独自性、機能性(2) 傷病者の特性(多様な傷病、超急性期における情緒的反応等)、処置介入の意義を説明できる。			
	6	窪田 和弘	教 授	救急救護の独自性、機能性(3) 救急救護過程の導入意義及び各過程における具体的内容(クリティカルシンキングを含む)を説明できる。			
	7	窪田 和弘	教 授	体系化への試み(1) 体系化の意義について説明できる。			
	8	窪田 和弘	教 授	体系化への試み(2) 理論と実践について説明できる。			
	9	窪田 和弘	教 授	体系化への試み(3) 理論と実践について説明できる。			
	10	窪田 和弘	教 授	体系化への試み(4) 本修士課程における各科目の関連性を説明できる。			
	11	窪田 和弘	教 授	救急救護“学”の指定の試み(1) これまでの授業内容を踏まえ、救急救護の特徴を概説できる。			
	12	窪田 和弘	教 授	救急救護“学”の指定(2) 救急救護について具体的な理論作りができる。			
	13	窪田 和弘	教 授	救急救護“学”の指定の試み(3) 救急救護について具体的な理論作りができる。			
	14	窪田 和弘	教 授	救急救護“学”の指定の試み(4) ケーススタディを用いて策定した理論作りを批判的に議論できる。			
	15	窪田 和弘	教 授	総括			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	これまでの救急活動の体験、あるいは救急業務のあり方を批判的思考で捉え、課題設定をしておく。事前に提示された検討課題の振り返りを行い、発表、討議に備える。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	病院前救護学の構築に向けた理論的基盤 窪田和弘 近代消防社						
参考書	医学概論とは 澤瀉久敬 誠信書房 哲学と科学 澤瀉久敬 日本放送出版協会 改訂版科学的看護論 薄井坦子 日本看護協会出版会						
成績評価の方法および基準	授業中の発言・発表・討議50%、救急救護“学”の指定・学問としての体系化についてのレポート50%						
その他履修上の注意事項	本科目の概念作りは、新たな課題への取り組みである。知見に富んだ独創性のある方向性を摸索するもので、既知の概念にとらわれずに自律的態度で授業に臨む。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP1が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						